
一般口演 | 1-07 カテーテル治療

一般口演-23

カテーテル治療

座長:

金 成海 (静岡県立こども病院)

北野 正尚 (国立循環器病研究センター)

Sat. Jul 18, 2015 10:10 AM - 11:00 AM 第5会場 (1F アポロン A)

III-O-21~III-O-25

所属正式名称: 金成海(静岡県立こども病院 循環器科)、北野正尚(国立循環器病研究センター 小児循環器科)

[III-O-23]当院において術後早期にカテーテル治療を施行した症例について

○寺町 陽三¹, 須田 憲治², 吉本 裕良², 岸本 慎太郎², 工藤 嘉公², 家村 素史¹ (1.雪の聖母会聖マリア病院 小児循環器科, 2.久留米大学医学部附属病院 小児科)

Keywords:カテーテル治療, 先天性心疾患, 術後早期

【目的と方法】2000年3月から2014年12月の期間に術後20日以内にカテーテル治療を施行した症例を後方視的に診療録より検索し、原疾患、手術術式、治療内容、効果について検討した。【結果】期間内に9症例あり、年齢は27生日~6歳、多くが肺動脈閉鎖。カテーテル治療前の術式は BTS術3例、Glenn術2例、TCPC術3例、CoA術後が1例。術後約10日目までに治療を行ったのが5例（早期治療群）、術後10日目以降に治療を行ったのが4例（後期治療群）。早期治療群は、症例1：TCPC術後に人工血管吻合部の IVCの狭窄に対して、術後3日後に IVC stent留置術を行い、大量腹水は改善。症例2：Glenn術後の SVC症候群に対して、術後4日目にバルーン拡張術を行い狭窄解除。症例3：TCPC術後に導管吻合部が RPA狭窄をきたしていたため、術後4日目に RPA stent留置術で狭窄解除。症例4：BTS術後(3.5mm人工血管)に BTSの完全閉塞あり、術後8日目にバルーン拡張術を行い閉塞解除。症例5：BTS術+左右 PA形成術後にシャント吻合部狭窄に対して術後8日目にバルーン拡張術で狭窄解除。後期治療群は、症例6：BTS術後7日目に突然の低酸素あり、BTS狭窄あり術後15日目にバルーン拡張術で狭窄解除し低酸素改善。症例7：Glenn術後の乳糜胸に対して、術後15日目に APCの coil塞栓術行い改善。症例8：TCPC術後の胸水貯留に対して、術後15日目に、APCの coil塞栓術行い改善。症例9：CoA+ PA banding術後の CoA再狭窄に対して術後20日目にバルーン拡張術施行して狭窄解除。合併症は認めなかった。【結語】術後早期にカテーテル治療を要するのは単心室型の術式が多い。術後1週間までは、血管狭窄や閉塞のため循環動態を維持できない状態に対して、バルーン拡大術やステント留置術が必要で、以降は胸水コントロールによる塞栓術などを行うことが多い。術後早期であっても、タイミングを見逃さず積極的にカテーテル治療を行うことで、良好な予後が期待できる。